

か

ぜ

蒲郡市民病院広報誌

海風 Kaze 風

24時間365日、
一刻を争う緊急事態の
受け皿として

蒲郡市民病院循環器内科第2部長
兼集中治療部第2部長 循環器内科医師

藤田 浩志

No. 16
2024
WINTER

蒲郡市民病院
医師インタビュー

vol.2

藤田 浩志

ふじた ひろし

循環器内科第2部長
兼集中治療部第2部長 循環器内科医師

元々カテーテル治療に興味を持っていた

—— どうして循環器内科の道に進まれたのでしょうか。

学生の頃から救急医療に興味があり、救急医療の道に進もうと思っていました。しかし、関東や九州の病院の救急医療を見学したときに体力的にかなりきついなと思ったことと、外科的な治療にどうしても興味が湧かなかったことがあり、自分に向いているのは救急医療ではないなと感じていました。そこで、内科でかつ救急疾患の診療ができる診療科を考えました。循環器内科が上がりました。元々カテーテル治療に大変興味を持っていたこともあって、救急疾患を診ることができ、かつカテーテル治療を行える循環器内科は自分に合っているのではないかと考え、循環器内科を選択しました。

突然死にも繋がる疾患に迅速に対応できる体制

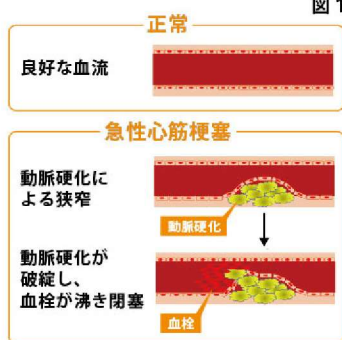
—— 循環器内科で扱われる主な症状や治療はどのような

ものでしょうか。

皆さん循環器内科と聞いてどんなことを行っている診療科なのかピンとこないと思います。循環器内科では主に心臓の疾患に対する診療を行っています。急性心筋梗塞や狭心症などに代表される虚血性心疾患や、不整脈、弁膜症、心不全といった疾患を対象としており、胸の痛みや息苦しさ、動悸など、症状によっては早急に治療を行わないと命にかかわることもあります。

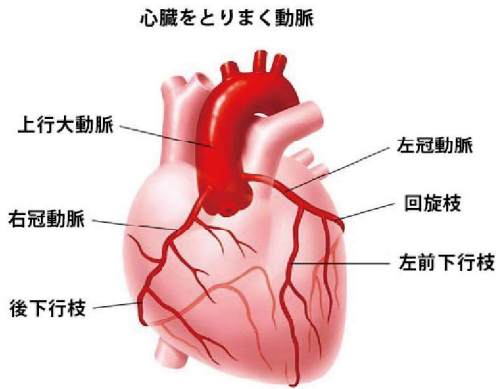
特によく耳にする急性心筋梗塞は一刻も早く治療を行わないと命に大きくかわりません。急性心筋梗塞とは、心臓を取り巻く血管（冠動脈）が動脈硬化の破綻をきたし、血管内に出現した血栓（血の塊）により動脈が詰まってしまいう病気です（図1）。そのため、

図1



急性心筋梗塞の治療はもちろん、 予防のための治療も行っています。

心臓の筋肉に血液が行き渡らなくなり、心筋が壊死してしまいます。つまり、心臓の動きが悪くなるのです。心臓は全身に血液を送るポンプ機能を持っていますが、心臓の動きが悪くなるとそのポンプ機能が落ち、全身に十分な血液を送れない心不全や、心室細動といった致死性不整脈などを引き起こしやすくなります。これらは突然死に繋がること



心臓をとりまく動脈

もあり、発症してから病院にたどり着くまでに亡くなられる方も少なくありません。病院にたどり着いても約6〜7%の方が亡くなられてしまう、非常に危険な疾患です。

この急性心筋梗塞に対する治療で重要なことは、詰まっていた冠動脈の血流をいかに早く再開させるかということにかかっています。現在、冠動脈の血流を再開させる治療の第一選択は心臓カテーテル治療となります。当院でも24時間365日、いつでも急性心筋梗塞に対するカテーテル治療に対応できる体制をとっています。急性心筋梗塞の患者さんが来院してから血流を再開させるまでの時間は、90分以内が望ましいと報告されています。当院では約80分程度で血流を再開させることができます。今後も引き続き、迅速な治療を行えるように日々努力していきたいと思っています。

素速く原因を突き止め、 血流を再開させる

—— 心臓カテーテル治療について詳しく教えていただけますか。

急性心筋梗塞に対する心臓カテーテル治療とは、血栓によって詰まった冠動脈に対し、バルーンカテーテルやステントと呼ばれるものを用いて動脈を広げることで血流を再開させる治療となります。

通常、冠動脈は右冠動脈と左冠動脈があり、左冠動脈は心臓の前面を取り巻く血管と後面から側面を取り巻く血管の2本に枝分かれしています。つまり、大きく右冠動脈が1本、左冠動脈が2本の計3本の冠動脈が心臓を取り巻き、酸素と栄養が届けられているのです。急性心筋梗塞の患者さんを治療する際は、まず心臓カテーテル検査でその3本のうちのどの冠動脈が詰まっているかを確認し、その箇所が

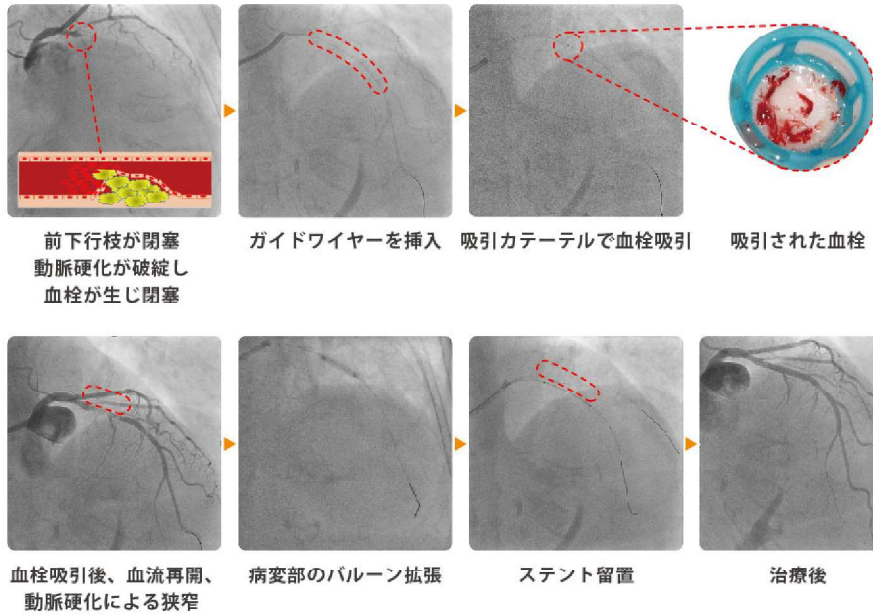
確認でき次第、治療へと移っていきます。

心臓カテーテル治療では、まず血流の止まってしまった冠動脈にガイドワイヤーという細い針金を通します。ほとんどの場合は血栓が出現したことによるものなので、必要に応じてカテーテルを用いて血栓を吸引し、体の外へと取り出します。血栓が取り除かれると血流が再開します。血栓が詰まっていた部分は血管

が硬く、細くなってしまっているため、その部位をさらにバルーンカテーテルで広げて、最終的にステントという金属の筒で十分な広さを確保することを確認します。ここまでで、治療は終了となります。血流が再開することによって、胸の症状はほぼ消失することが多いです。このように血流を再開させることが急性心筋梗塞の第一の治療となります。



心臓カテーテル治療の流れ



もちろん血流を再開させたからもう大丈夫というわけではなく、先に述べたような、血液の循環不足による心不全や不整脈といった病気を発症することもあるため、カテーテ

ル治療後は集中治療室で厳重な管理を行うことが必要になります。急性心筋梗塞を発症すると心臓の動きが悪くなりポンプ機能が低下してしまうため、心筋梗塞発症前のよう

にすぐ動けるようにはなりません。いつものように動くことすると心臓に負荷がかかってしまい、心不全や不整脈といった他の病気を発症しやすくなってしまいます。そうならないように、少しづつ動ける範囲を広げていき、心臓が耐えられるか確認を行っていきます。いわゆる心臓のリハビリです。大きな合併症がなく順調に経過すれば10〜14日間くらいで退院は可能となります。しかし、心臓のポンプ機能が非常に低下してしまつた場合は違う病気を発症することが多いので、1ヵ月以上入院を必要とすることもあります。また、冠動脈の治療箇所によっては心臓カテーテル治療がうまくいっても心臓のポンプ機能が低下しすぎてしまい、亡くなられることもあります。やはり命にかかわる病気であるということをお忘れてはいけません。

また、急性心筋梗塞になられた方は、再び発症する可能性が高いといわれています。退院後再び発症しないために、適切な食事と運動療法が必要です。また、それだけではなく、

急性心筋梗塞の原因である糖尿病、脂質異常症や高血圧をお持ちの方は、これらの疾患に対してしっかりと治療を行わないといけません。たばこを吸われている方は、必ず禁煙を行っていただく必要があります。退院したからいいというわけではなく、助かった命を大事にしてください。と医者として嬉しく思います。

—— 市民の皆さんへメッセージをお願いします。

私たちは急性心筋梗塞になつた患者さんに対して治療を行っているだけでなく、急性心筋梗塞にならないように対処する診療も行っております。先に述べた原因である糖尿病、脂質異常症や高血圧をお持ちの方へ、内服治療の重要性や、たばこがいかに影響を与えるかの啓蒙活動をしっかりとしていかなければならないと日々診療にあたっています。少しでも胸の症状が気になる方は当院循環器内科への受診をお願いします。



心臓カテーテル治療の優れた技術を持ち、大学病院でも多くの業績を上げてきた藤田先生を蒲郡市民病院に迎えられることを大変うれしく思っています。先生のおかげでチームとしての循環器内科がとても充実してきました。



蒲郡市民病院
CEO 城先生

藤田医師のツボ

\ 週末のたしなみ /



お酒

特にこれといったものはないですが、休みの日はお酒が好きで愛飲しています。

\ 大好物 /



丼に食べる一口カレー

赤身を中心とした肉料理が大好きですが、それらの最後に食べる丼のカレーを食べたときに感動しました。

\ 座右の銘 /



藤田医師自筆

為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり

循環器内科疾患の治療は蒲郡市民病院で完結させたい！

皆さんに安心してもらえるような診療ができるよう、努力してまいります。

石灰化を切削する デバイスを導入

狭心症のカテーテル治療で通常のバルーンでは拡張困難だった石灰化病変。しかし、石灰化を切削できるデバイスを導入したことで、当院で治療が可能になりました。

頻脈性不整脈へのカテーテル アブレーションの開始

昨年4月から頻脈制不整脈へのカテーテルアブレーション治療を開始しました。また徐脈制の不整脈に対してもリドスペースメーカーの埋め込みが可能となっており、不整脈領域の治療も進歩しております。

ECMO（体外式膜型人工肺） の導入

通常の人工呼吸器では対処しきれない重症の呼吸不全や、循環不全に対して用いられる人工肺で、心臓と肺の機能を補助し、体内の循環を助けてくれます。

閉塞性動脈硬化症に対する カテーテル治療を開始

心臓疾患以外に血管疾患に対しても診療を行っており、血管が狭まったり、詰まったりしてしまった際にカテーテル治療を行うことで切断といった最悪の状況を防ぐことができます。

循環器内科診療はチーム医療

循環器疾患の診療は医師だけで治療が完結できるわけではありません。例えば急性心筋梗塞における心臓カテーテル治療は、前述したように迅速な対応が必要となり、看護師・放射線技師・臨床工学技士との連携が大変重要となります。また、急性心筋梗塞後、重症心不全の方に対するリハビリ・運動療法には理学療法士との連携も必要とされます。今後も多職種との連携を深め、皆さんが安心して信頼できる診療体制を作れるように頑張ってまいります。



循環器内科 主な対象疾患

心臓と血管に関する病気を診るのが循環器内科です。症状は胸部や足によく現れます。胸の痛みや胸部の違和感、動悸や息切れなどの症状や、歩行時・安静時の足の痛み、足の傷が治らないなどの症状が見られる場合は循環器内科を受診しましょう。

虚血性心疾患

虚血性心疾患とは、心臓の筋肉を取り巻く血管（冠動脈）が狭窄・閉塞してしまう病気で、狭心症や急性心筋梗塞があります。心筋梗塞は、一旦発症すると致死率が約40%の非常に怖い病気です。心筋梗塞で死亡する方の多くは入院前に死亡しています。そのため、心筋梗塞を発症した方を助けるためには、一刻も早い救急搬送、AEDの活用が重要ですが、それでも救命が難しい場合も多くあり、まず発症を予防することがとても大切です。突然発症するのに

予防なんて、と思う方がいるかもしれませんが、実は心筋梗塞には発症する前に前兆の症状（不安定狭心症）があるのです。

【要注意の前兆】

- ・繰り返しの胸の痛み・圧迫感
- ・胸やけ
- ・階段や歩行時に出現、憎悪する

前兆の時点で異常に気づき、適切な治療を受けることで、心筋梗塞の発症を防ぐことができます。

胸の痛みや圧迫感といった症状には、心臓カテーテル治療が用いられます。これは、狭窄・閉塞し

てしまった冠動脈をバルーンやステントを用いて血管を広げ、血流を再開させる治療法です。特に急性心筋梗塞は命にかかわる病気であり、一刻も早く心臓カテーテル治療が必要となります。当院では、24時間、緊急の心臓カテーテル治療に対応できるような体制で診療を行っております。

詳しくは前ページの藤田先生のインタビュー記事をぜひご覧ください！

不整脈

不整脈とは、脈が速くなる、遅くなる、または不規則になる状態をいいます。脈が1分間に100以上の場合は頻脈^{ひんみやく}、50以下の場合は徐脈^{じよみやく}と呼び、適切な治療が必要です。

頻脈性不整脈は心房細動や、突如脈拍が速くなってしまふ発作性上室性頻拍といった不整脈に対してカテーテルアブレーション（経皮的カテーテル心筋焼灼術）という治療が1つの選択肢となります。頻脈性不整脈は心臓の中に異常な電気回路があり、その回路を電気が回ることによって生じるため、カテーテルアブレーションという治療法でその異常な回路に対してカテーテルを用い、焼灼また

は冷凍凝固を行って不整脈の発症を抑えます。

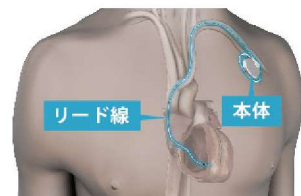
当院では今年度（2023年4月から）カテーテルアブレーションが可能となりました。週に1回、頻脈性不整脈に対してアブレーション治療を行っております。

逆に脈拍が異常に遅くなってしまふ徐脈性不整脈は、主な治療としてペースメーカーの植え込みを行います。心臓は電気信号の伝導により収縮しますが、自分の心臓がうまく電気信号を作れなくなると、脈が遅くなってしまいます（洞不全症候群・完全房室ブロックなど）。ペースメーカーはそのような心臓に脈を補う電気信号を送り、乱れた脈拍を安定させる役割を担ってくれるのです。

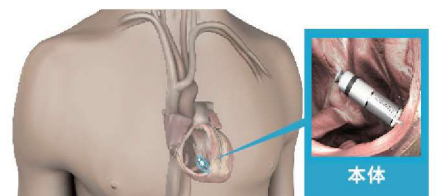
植え込まれるペースメーカーにも

種類があり、リード付き・リードなしのものが存在しています。

当院においては両タイプのペースメーカーの植え込みが可能となっており、患者さんの原疾患・基礎疾患を考慮して、適応を判断しています。



リード付きペースメーカー



リードレスペースメーカー

下肢閉塞性動脈硬化症

下肢閉塞性動脈硬化症とは足の動脈の管の中が細く狭まってしまったり（狭窄）、完全に塞がってしまう（閉塞）病気です。歩行時の下肢の痛みが主な症状です。治療をせずそのまま病気が進行すると安静時でも痛みが出現し、下肢皮膚潰瘍や壊死に陥ってしまいます。ほっておくと最悪の場合は下肢の切断に至ることもあるため、少しでも違和感や、いつもと違う痛みを感じたら受診することが大切です。

治療にはカテーテル治療を必要とすることがあり、下肢動脈カテーテル治療とは狭くなったり閉じてしまったりした下肢動脈をバルー

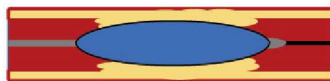
ンやステントを用いて血管を広げ、うまく流れなくなってしまった血流を再開させる治療法です。



① 動脈硬化による内腔の狭小化



② バルーン挿入



③ バルーンによる拡張



④ ステント挿入



⑤ ステントによる拡張



⑥ ステント留置により内腔の確保

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は蒲郡市民病院を何かとご支援いただき、

誠にありがとうございました。

本年も何卒よろしくお願いいたします。



最高経営責任者 城 卓志

最近の市民病院は、コロナ禍後の影響はありますが、これまで着実に続けてきた努力も実りつつあります。具体的には、昨年は内科治療が充実し、不整脈や心臓カテーテルなどの治療内容がより高度になりました。また、肺がんをはじめとする外科系の手術も高度化し、件数も随分増えています。医療機器の最新化も進み、医療のデジタル化も他病院が見学に来るレベルとなりました。さらに、外来受診窓口の整備やトイレの改修もすでに開始しており、今後も予算が許す限り、少しでも受診していただきやすくする努力を進めたいと考えています。

加えて、今年はい目標であり夢であった蒲郡市全体の医療・介護のデジタルケアシステムが実現しつつ

あります。蒲郡市と共に市民病院が中核として参加することで、行政、病院、診療所、介護施設、薬局などに分散する医療情報を統合、共有する新しい仕組みの構築が進んでいくのです。この仕組みが実装されると、市民病院のみならず蒲郡市全体の医療・介護サービスの効率化が進み、さらなる質の高まりが期待できると思います。

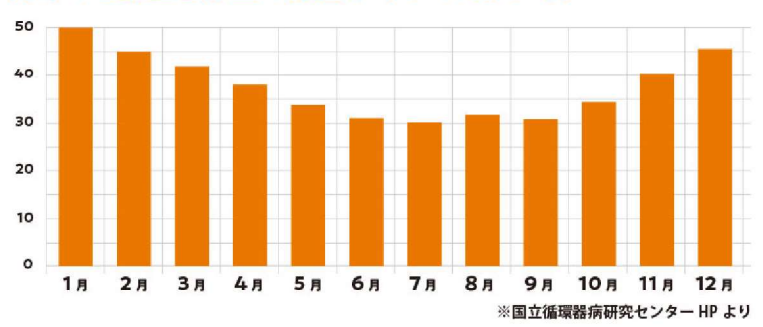
まだまだ、至らぬところも多い市民病院ですが、今後ともこのような努力を続けて、蒲郡市全体の豊かさにもつながる病院にしていきたいと考えています。今年も課題の多い年になりそうですが、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。



寒い季節は要注意！ 心臓にストレスのない生活を！

日本人の死因第2位である心疾患。
冬は寒さで血管が過剰に収縮したり、屋内外の急激な温度差が心臓にストレスを与える「ヒートショック」になりやすいため特に注意が必要です。

月毎の心原性心停止の発症率 (人/10万人・年)



心疾患の予防法

重要なことは、心筋梗塞を思った人の約半数に、心筋梗塞を発症する前に前兆の症状 (= 不安定狭心症) があることです。心筋梗塞を発症する前の前兆の時点で異常に気づき、適切な治療を受ければ、心筋梗塞の発症を防ぐことができます。

心筋梗塞について、詳しくはこちらのサイトをご覧ください。



症状についてご不安な方はご相談ください。
TEL 0533-66-2310 (患者支援センター)
 相談受付時間：平日 午前8時30分～10時30分

私たちリハビリテーション科の 心臓リハビリテーション部門を紹介します！

心筋梗塞や狭心症、心不全、大動脈解離、心臓術後など、命に関わる心臓の病気をした患者さんは「日常生活が問題なく送れるだろうか」、「どこまで動いても大丈夫だろうか」と不安もあると思います。心臓リハビリテーションは安全な運動負荷量を見極めながら実施することで、体力の回復、再発予防などの効果が得られます。当院には心臓リハビリテーション指導士という資格を持った医師、理学療法士がおり、入院後間もない方から、退院後の社会復帰や運動習慣の確立を目的とする方まで、幅広く心臓リハビリテーションを実施しています。



思い当たるところがないかを考えてもらえる良い機会に...

年も明け、本格的に寒い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。海風 Vol.16は寒い時期、特に気を付けたい心疾患についての構成にさせていただきました。読んでいただけた方が、少しでも思い当たるところがないかを考えてもらえる良い機会になるととても嬉しいです。
余談ですが、循環器チーム写真が個人的にとっても大満足です。(笑)

広報担当者 U・H

